

## フォトキナ 2018： 強烈なイメージをケルンから発信 業界屈指の見本市、豊富な新製品とエキサイティングな雰囲気で輝く

フォトキナ 2018 に対する興奮は、開幕前からはっきりと感じられました。展示コンセプトの再調整、そして待望の新製品の数々が、業界関係者と来場者に大きくアピールしたのです。今回はフルサイズとコンパクトサイズの新しいミラーレス一眼カメラ、幅広いモバイルアプリケーション、イメージ創造のプロセス全般で投入される人工知能などの新製品が紹介されました。ステージ上で展開された充実のワークショップ、そしてイベントプログラムとあわせて、フォトキナは今回もまた、イメージング業界をリードする見本市としてのステータスをあらためて確立しました。180,000 人の来場者が訪れ、会場のエネルギッシュな空気と賑わいに貢献し、また出展者ブース、ステージ、特別展示スペースでの充実した商談の主役となりました。

フォトキナの徹底したコンセプト再調整は、開催者、出展者、そして来場者にとって変化とチャレンジを意味するものです。6 日間でなく 4 日間の会期、来年からは隔年 9 月でなく毎年 5 月の開催、ホールの新しいレイアウト、そしてとりわけ、新しいテーマの設定と体験重視のメッセといった点が変更されています。その目標は、新しい出展者と来場者のターゲットグループを獲得して、イメージング技術の限りない可能性をさらに高め、フォトキナを新時代へと導くことです。

フォトキナ 2018 の最初の成果は、今回すでに明確でした。メイン展示においても、モバイル、動画、ソフトウェアの部門においても、これまでにないほど多数の新製品が紹介され、今後数ヶ月のビジネスに大きな弾みがつくことが予想されます。“Olympus Perspective Playground”のようなハイライトのイベントは、来場者の体験を製品のプレゼンテーションに結びつける工夫が、若いターゲットグループに非常に喜ばれることを証明しました。これにより、フォトキナが目的としていたイノベーションとインスピレーション、そしてビジネスとイベントのバランスが、最適の形で実現したわけです。

### 未来に向けての明るいサイン

「出展者と来場者からのフィードバックは、全面的にポジティブです。出展者は総じて、来場者の数にも、そしてそのクオリティにも満足しています。来場者側もまた、ここで体験したことを高く評価しています。我々が着手したコンセプト再調整は、まさに正解であったと言えます」。ケルンメッセのゲラルト・ベーゼ社長は、会場全体のポジテ

イブな印象を総括します。「今回の実績にもとづいて、『2019年のフォトキナでは展示スペースを拡大する』、『再出展する』、または『初出展する』と表明した企業が何社もあります。特に放送と映画業界に顕著で、2019年には出展者数の大幅増を期待できます」。

フォトキナの共同主催者であるドイツ写真工業会のライナー・フューレス会長もまた、楽観的です。「バリュー創造チェーンの全分野にわたる新製品が多数紹介され、フォトキナは今回久々に、非常に革新的な内容になりました。イメージング業界の重要性が、ここケルンでいま一度証明されたのです。イメージング技術は日常において、そして全産業分野において欠かさない存在です。我々メーカーは、そのために多様なソリューションと製品を提供しています。我々が業界として、そしてフォトキナの新しいコンセプトの下に今後も順調に発展できることは、今週の商談の充実ぶりから感じることができます」。

現時点ですでに、次回のフォトキナ 2019 で多くの新製品が紹介されることが見込まれています。たとえば業界大手のパナソニック、ライカ、シグマの新たな戦略的提携により、現在開発中のLマウントシステムが製品化されてフォトキナ 2019 年で発表される予定です。これに照準を合わせ、イメージング業界は今後数ヶ月間、一層活気を呈するでしょう。

## 画期的な新製品

フォトキナ 2018 では、フジフィルム、ニコン、キヤノンの開発部門による大型、中型の新しいミラーレスカメラが熱狂的に迎えられました。3社は画質において、そして写真とビデオの融合という点で、新たな業界標準を確立しました。モバイル分野では、スマートフォン製造のHuaweiが最新のフラッグシップモデルで新たなレベルに到達し、高い評価を誇るライカのレンズ技術、3台のカメラ、そして人工知能の支援を得て、傑出したイメージを表現しました。

イメージング技術を人工知能で増強する取り組みは、バリュー創造チェーンの全分野に及びました。たとえばヨーロッパ最大の写真フィニッシュサービス企業Ceweは、音声指示によって写真アルバムが数秒のうちにスマートフォンで作成され、注文可能になる技術を紹介しました。写真の選択とレイアウトは人工知能が担当します。

手で触れることができるプリント写真は、今回も重要な役割を果たしました。思い出の瞬間のプリントから、多様なマテリアルに印刷された展覧会用の高品質大判プリントまで、実に幅広い製品群が紹介されました。HPやエプソンといった古株の出展者は、特にB2Bソリューションとプロ向けの製品が来場者を大いに引きつけたことを評価しています。インスタント写真のブームが続いていることを歓迎するのは、富士フィルムで、同社のインスタックスカメラはその場で印刷できるだけでなく、すでにデジタル加工が可能です。

今回、特に前面に押し出されていたのは、写真加工とソフトウェアの部門で、ここには多数のスタートアップ企業が初出展しました。彼らが提供するスマートなソリューションは、プロの写真家、熱心な写真ファン、グラフィックデザイナーやイラストレーターの仕事は今後大幅に軽減することでしょう。ホール 5.2 の動画部門では、特にオーデ

イオ部門の展示スペースが拡大され、今後、フォトキナでこの分野が発展すべき方向性を示しました。この分野では、次回 2019 年 5 月のフォトキナにおいても、すでに出展者数の大幅な増加と多数の新製品が期待されています。ヘッドフォンの Sennheiser 社は今回初出展し、スマートフォン対応の“ワイヤレス Memory Mic”を紹介しました。これを使えば、ジャーナリストやコンテンツ作成者は速く簡単に高音質のビデオを制作することができます。HumanEyes 社は、スマートフォンに簡単に接続できる、業界初の仮想現実用ミニゴーグルを発表しました。

## 大盛況のイベント会場

製品を通じた体験がいかに重要かは、ホール 1 の Olympus Perspective Playground に顕著に表れていました。来場者は展示ブースの喧騒からひととき逃れ、実に楽しそうに、全世界からのアーティストで構成されたインсталレーション会場をカメラ片手に探索しました。このイベントには、Morag Myerscough と Luke Morgan のデュオ、Numen/For Use、Liz West、Martin Butler、Maser and Patrick Shearn/Poetic Kinetics といったアーティストたちが参加しています。プロの写真家たちにとっては、「ウェディングゾーン」(“WEDDING ZONE”)と題された、高レベルの講演プログラムの数々が、フォトキナ来訪のハイライトになりました。今回新設の“Imaging Lab”では、スタートアップ企業、投資家、学術関係者が一堂に会して、写真技術の将来の可能性を提示し、また討論しました。イベント部門は、今後さらに拡大される見込みです。

## 全世界を結ぶコミュニケーション・プラットフォーム

多くのフォトキナ来場者にとって主な目的は、今年も同好者との情報交換と、インスピレーションの獲得でした。ケルンメッセ会場の数々のステージと、出展者による講演スペースは、会期を通じて常に大盛況でした。インスタグラムや YouTube で世界的に成功を収めている多数のクリエイターが、今年のフォトキナをネットワーキングの場として盛んに活用しました。彼らの多くは、新コンセプトで 6 月以降ユーザー数を倍増させたフォトキナのインスタグラム・チャンネルをフォローしています。このプロジェクトはミヒャエル・シュルツ (@berlinstagram) がキュレートしたもので、クオリティの高いデジタルフォトマガジンを目指すものです。ケルンメッセのステージに頻繁に登場し、また企業のブランドアンバサダーも務める若いクリエイターたちの活躍ぶりをフィーチャーしました。このプロジェクトの目的は、イベントとクリエイターたちの交流を促進し、全世界を結ぶコミュニケーション・プラットフォームを提供し、また若い来場者層のニーズに応えることです。今年の実績でも、30 歳以下の来場者数が引き続き増加しています。

## フォトキナ 2018 データ：

フォトキナ 2018 には 812 社が出展、その 69%が海外からの参加でした。内訳は、ドイツから 167 の出展者と 87 の代理人、海外から 362 の出展者と 196 の代理人です。来場者数は最終日推定を含め、127 カ国から約 180,000 人でした。

次回のフォトキナは、2019 年 5 月 8 日 (水) ~ 11 日 (土) に開催されます。